

1-1 建物概要

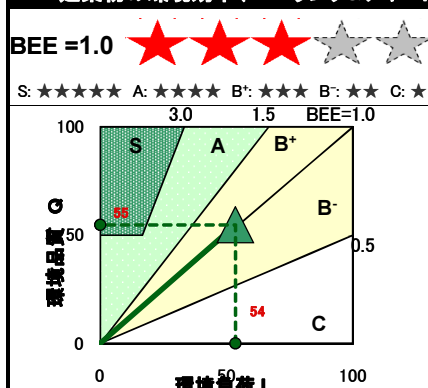
建物名称	永井診療所・共同住宅
建設地	京都府京都市
用途地域	第一種住居地域, 第二種高度地区
気候区分	地域区分Ⅳ
建物用途	病院, 集合住宅
竣工年	2011年3月 予定
敷地面積	1,464 m ²
建築面積	614 m ²
延床面積	2,226 m ²

階数	地上5F
構造	RC造
平均居住人員	53 人
年間使用時間	8,760 時間/年
評価の段階	実施設計段階評価
評価の実施日	2010年7月9日
作成者	妹尾正治
確認日	2008年7月10日
確認者	妹尾正治

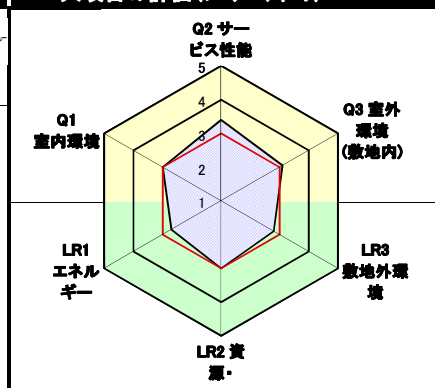
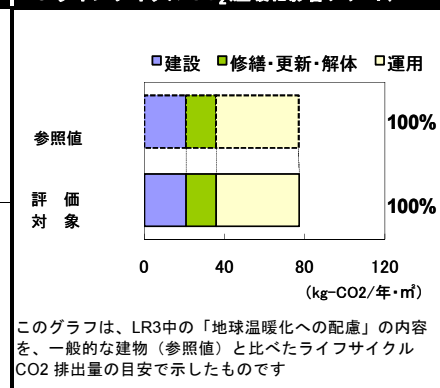
1-2 外観



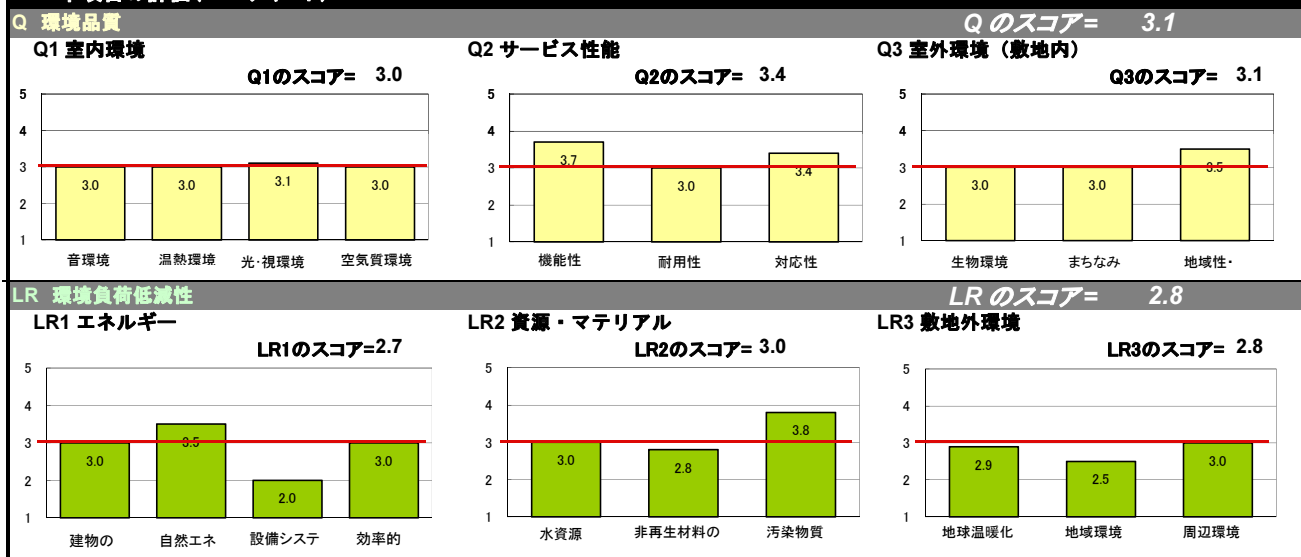
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合 大きな開口部(2方向)とバルコニーを各住戸に設置。シンプルな形状の建物とし、周辺の環境に配慮。空地、緑地の十分な確保			その他 注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境 太陽の光を各住戸が十分に受けられるように計画。新幹線の騒音に対する配慮。	Q2 サービス性能 各住戸用のトランクルームスペースの設置。診療所のアクセス、内部空間についてはバリアフリー化。	Q3 室外環境 (敷地内) 南及び西側に緑地を設置、道路側に空地を確保	
LR1 エネルギー 太陽光発電の利用、省エネルギータイプの空調、給湯器の利用	LR2 資源・マテリアル リサイクル可能な材料の利用、撤去した住宅からの部材の転用	LR3 敷地外環境 隣地境界に庭を設ける他、緑化に務める	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される